



## 2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月8日

上場会社名 株式会社 エスライン  
コード番号 9078 URL <http://sline.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山口 嘉彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 白木 武

TEL 058- 245- 3131

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	12,235	0.8	187	59.7	219	55.1	145	54.6
2019年3月期第1四半期	12,139	6.3	466	78.3	488	71.3	320	71.8

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 90百万円 (77.4%) 2019年3月期第1四半期 400百万円 (86.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	13.20	
2019年3月期第1四半期	29.09	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	36,722	20,999	57.2
2019年3月期	36,678	21,108	57.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 20,999百万円 2019年3月期 21,108百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		18.00	18.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		8.00		10.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,500	4.3	920	3.4	950	3.4	610	6.9	55.29
通期	52,000	5.8	1,950	15.5	2,000	13.9	1,310	35.1	118.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	11,095,203 株	2019年3月期	11,095,203 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期1Q	63,446 株	2019年3月期	63,446 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	11,031,757 株	2019年3月期1Q	11,031,815 株
------------	--------------	------------	--------------

当社は、株式給付信託(BBT)を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数および期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調で推移いたしました。米中貿易摩擦の長期化や、それに伴う世界経済の減速懸念、今後の消費税率引き上げによる影響等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、深刻化するドライバーを中心とした労働力不足やそれに起因する輸送供給力の低下を補完するための備車費、外部委託費の増加等、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、本年度を初年度とする中期経営計画（スローガン：「エスラインブランドの価値向上“Think next Value”」）を新たに策定し、経営目標の達成と企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、営業収益122億35百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益1億87百万円（前年同期比59.7%減）、経常利益2億19百万円（前年同期比55.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億45百万円（前年同期比54.6%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### [物流関連事業]

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。

トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、これまで取り組んでまいりました適正水準への運賃改定と諸料金の収受に向けた交渉を引き続き進めてまいりました。また、当社グループの主力であります特別積合せ事業においては、中部地区における総合ディスカウントストアへの店舗配送業務の拡大により、貨物輸送量は増加しましたが、5月の大型連休による営業日数の減少や天候不順の影響による取扱物量の減少が大きく影響し、減収となりました。

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、飲料、自動車関連部品、一般雑貨商品、夏冬タイヤの保管業務の増加に加え、本年5月に新築した㈱エスライン郡上の移動ラック式定温管理倉庫が稼動する等、物流サービスにおける様々なご要望にお応えしてまいりました結果、増収となりました。

大型貨物の個人宅配を行うホームサービス部門では、お取引のある家電量販店様の販売好調を背景に、配送および設置業務が増加したことに加えて、配送料金の改定も大きく寄与し、増収となりました。

また、引越しサービスについては、「スワロー引越便」のPR活動の効果や、これまでの引越実績の評価等により、法人関係の引越受注が増加し、増収となりました。

一方、費用面では、ドライバー不足による備車、外部委託や、休日の配送業務に対応するための外部委託の使用が増加したことに加え、備車会社・外部委託会社・中継会社からの値上げ要請もあり、備車費・外部委託費・支払中継料等の増加が、収入の増加を上回る結果となりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は120億21百万円（前年同期比0.8%増）、セグメント利益は2億73百万円（前年同期比50.4%減）となりました。

#### [不動産関連事業]

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。一部賃貸物件において、賃料の改定を実施いたしました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は1億23百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益は60百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

#### [その他]

その他事業におきましては、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、岐阜市内の高校や近隣の大学の通学バスおよび冠婚葬祭時の送迎バス等、地元に着した運行業務に取り組んでまいりましたが、競輪場のファンバス運行を昨年6月に終了したことにより減収となりました。

また、売電事業におきましては、㈱エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび㈱スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。（総発電量1,333.96kW）

この結果、その他事業の営業収益は89百万円（前年同期比9.7%減）、セグメント利益は21百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の連結資産合計は367億22百万円となり、前連結会計年度末比44百万円増加しております。この主な要因は建設仮勘定の増加と現金及び預金、受取手形及び営業未収入金の減少によるものであります。

また、連結負債合計は157億23百万円となり、前連結会計年度末比1億53百万円増加しております。この主な要因は「流動負債」のその他と賞与引当金の増加によるものであります。

連結純資産合計は209億99百万円となり、前連結会計年度末比1億9百万円減少しております。この主な要因は配当金の支払による減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日に公表いたしました当第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

なお、実際の業績については、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,740	4,455
受取手形及び営業未収入金	6,031	5,806
貯蔵品	92	100
その他	600	826
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	11,464	11,189
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,581	8,752
機械装置及び運搬具(純額)	2,162	2,050
土地	10,813	10,813
リース資産(純額)	129	119
建設仮勘定	822	1,237
その他(純額)	175	174
有形固定資産合計	22,685	23,148
無形固定資産	97	95
投資その他の資産		
投資有価証券	1,354	1,269
退職給付に係る資産	52	51
繰延税金資産	158	155
その他	873	820
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	2,430	2,289
固定資産合計	25,214	25,532
資産合計	36,678	36,722

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	5,255	5,307
短期借入金	330	330
1年内返済予定の長期借入金	1,052	986
未払法人税等	340	77
賞与引当金	477	610
役員賞与引当金	46	9
設備関係支払手形	4	4
その他	902	1,553
流動負債合計	8,409	8,879
固定負債		
長期借入金	2,040	1,814
繰延税金負債	1,352	1,327
役員退職慰労引当金	108	72
役員株式給付引当金	24	29
退職給付に係る負債	2,797	2,771
資産除去債務	498	499
その他	337	328
固定負債合計	7,160	6,843
負債合計	15,570	15,723
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,237	2,237
資本剰余金	2,946	2,946
利益剰余金	15,746	15,692
自己株式	△77	△77
株主資本合計	20,853	20,799
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	378	319
退職給付に係る調整累計額	△123	△120
その他の包括利益累計額合計	254	199
純資産合計	21,108	20,999
負債純資産合計	36,678	36,722

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業収益	12,139	12,235
営業原価	11,241	11,601
営業総利益	898	633
販売費及び一般管理費	431	445
営業利益	466	187
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	13	14
受取賃貸料	6	6
持分法による投資利益	—	2
その他	9	15
営業外収益合計	29	38
営業外費用		
支払利息	1	2
売上割引	0	0
債権売却損	4	4
持分法による投資損失	0	—
その他	0	0
営業外費用合計	6	7
経常利益	488	219
特別利益		
固定資産売却益	9	6
特別利益合計	9	6
特別損失		
固定資産除売却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	498	225
法人税等	177	80
四半期純利益	320	145
親会社株主に帰属する四半期純利益	320	145



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	320	145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72	△58
退職給付に係る調整額	6	3
その他の包括利益合計	79	△55
四半期包括利益	400	90
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	400	90

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	11,924	115	12,040	99	12,139	—	12,139
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	11,924	115	12,040	99	12,139	—	12,139
セグメント利益	550	56	607	21	629	△162	466

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バス事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△162百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	12,021	123	12,145	89	12,235	—	12,235
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	12,021	123	12,145	89	12,235	—	12,235
セグメント利益	273	60	334	21	355	△168	187

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バス事業、売電事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△168百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。